

令和元年度 第5回太田地域協議会会議録

令和2年1月29日

太田地域協議会

令和元年度 第5回太田地域協議会会議録目次

■開催日時	1
■開催場所	1
■出席委員	1
■欠席委員	1
■出席職員	1
■次第	1
■開会	2
■会長あいさつ	2
■支所長あいさつ	3
■会議録署名委員の指名	4
■報告	4
(1) 地域枠予算活用事業実績報告	4
(2) 太田地域協議会委員（第5期）の選任について	4
■その他	5
■協議	8
各種計画の策定に伴う説明及び意見聴取について	8
■閉会	14
■署名	15

令和元年度 第5回太田地域協議会 会議録

■日 時：令和2年1月29日 午前10時00分

■会 場：太田支所 2階 会議室

■出席委員：10名

伊藤 勝良、田口 誠毅、小柳 真理子、高橋 洋
富木 勇、根本 昇、水谷 英明、小松 江里子、
水谷 仁光、倉田 吹紀子

■欠席委員：6名

小松 泉、倉田 満法、佐藤 田鶴子、高橋 睦子、
長澤 仁十郎、鈴木 賢一

■出席職員：9名

谷口 藤美（支所長） 藤澤 寿史（市民サービス課長）
田中 勲男（農林建設課長） 黒澤 伸朗（公民館長）
倉田 康弘（東部新規就農者研修施設副主幹）
高橋 正人（地域活性化推進室主幹） 藤澤 正信（地域活性化推進室主任）

※説明のため、次第7「協議」から出席

新田 雅昭（企画部総合政策課主幹） 小笠原 潤（企画部総合政策課主査）

■次 第：

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 支所長あいさつ
- 4 会議録署名委員の指名
- 5 報 告
 - （1）地域枠予算活用事業実績報告
 - （2）太田地域協議会委員（第5期）の選任について
- 6 そ の 他
- 7 協 議
 - 各種計画等の策定に伴う説明及び意見聴取について
- 8 閉 会

(午前10時00分 開会)

○谷口支所長（以下「支所長」と表記）

それでは、皆様大変お待たせいたしました。ちょうど定刻となりましたので、地域協議会を始めさせていただきます。

会議を始めます前に、本日は定数の半数以上の委員の皆様から出席いただいておりますので、会議が成立することをご報告いたします。また、会議録作成のために、発言の際はマイクをご使用くださいますようお願いいたします。

それでは、会議の進行を規定により会長にお願いいたします。

○水谷英明太田地域協議会会長（以下「会長」と表記）

どうも皆さんお疲れ様でございます。今年は天候がすごい穏やかでいいんですけれども、世界の方でもいろんな出来事があります。

昨年の12月18日に東部地区の地域協議会の合同研修会がございまして、多数の方々にご参加いただきましてありがとうございます。仙北町の「みずほの家」で餅つきをして、そのついた餅をごちそうになりました。JAの方から餅をついてもらい、その場で小豆ときな粉と胡麻の3種類ごちそうになって、特に小豆は甘さが控えめで美味しかったなと思いました。2升で9千円位でやってくださるということでしたので、もし集落とかいろんな会で利用することがありましたらお願いしますというなお話でございました。あと、秀よしさんと中里温泉と奥羽山荘の方を回らせていただいて、いろいろと勉強になりました。

今一面トップの話題の、中国の新型のコロナウイルスですけれども、最初の予想とは反しましてすごい勢いで広まっているところです。最初は数千人というような発表でしたが、イギリスの何とかという新聞では25万人になるような予想とかも出ているようでした。今は世界の人々の行き来がすごい多くなって、日本も観光に力を入れていますけれども、そうなるとうやほり当然感染が広まるというのは避けられないことなのかなということで、これから日本がそういう方面に進んでいくとすれば、今のような状態が起こった時の対応とかも考えていくようになるのかなと思いました。だいたい今まで見ても、SARSとかMARSとか、鳥インフルエンザとか何年かおきに出ているようです。ウイルスはちょうど私たちが高校の頃に話題が多かったのですけれども、人間とか生物はウイルスのお蔭で進化してきたというような文献がありました。おそらく、そのウイルスを絶滅させることは出来なくて共存していくんだなと思いますので、これからも度々このようなことが出てくると思いますので、自分たちで身を守るようなことをしていかなければと思います。

もう1つだけ、ダボス会議でグretaさんの顔を最近テレビでよく見られると思いますけれども、いわゆるあの方の言葉が私たち大人に向けられた言葉だと思いますけれども、やはり国のトップとかだけでなく私たち住民というか一般の国民の大人に向けられた言葉

なのかなと、かなりドキッとして聞いています。「大人は嘘つきだ」というそういう風なことだと思えます。私たちもいろいろ考えると、知らず知らずのうちに分かってはいるけれどこっちの方は出来ないというのが多くなってきているんだと、そういう風に思いました。

新聞の記事を1つだけ。アメリカのムニューシン財務長官という方が、大学で経済を勉強してから説明に戻って来なさいとたしなめたそうです。それに対してグレタさんは、地球温暖化は学位を取らなくても分かることだとツイッターで反論したそうです。将来世代の声が取り入れられるようになったのは進歩と言えるだろうという記事が載っていました。まさに地球温暖化は学者が考えなくても一般の人でも分かる内容だと思いますけれども、やはりそれを分かることが出来ないということが、自分の中で葛藤しているところです。

今日、大仙市の戦略について大曲庁舎の方から来て説明頂くことになっておりますので、内容も結構多いですので、報告とかあらかじめ資料配られた内容については簡潔に報告していただき、皆さんの質疑応答の方を重視して行いたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、「令和元年度第5回太田地域協議会」を開会いたします。開会に当たりまして、谷口支所長からごあいさつをお願いいたします。

○支所長

改めまして、本日は皆様お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

異常な雪不足で、すでに皆様ご承知のとおり大仙市内3スキー場は、1月いっぱい閉鎖ということになりました。大台スキー場は、従業員の努力もあって1月に入って5日間営業をしておりますが、大曲ファミリースキー場と協和スキー場は全く営業できなかったようです。また国の重要無形民俗文化財にも指定されている六郷の竹うちや、太田の火まつりと同じ日に開催していた仙北地域の冬まつりも中止となっています。

このような中、2月1日開催の「第39回太田の火まつり」は、例年どおり行う予定で準備を進めております。少なくとも雪中田植えと天筆の土台に雪が必要ですが、実行委員会の方々や支所の職員が先週から公共施設の軒下などから雪をかき集めて火まつり会場に運ぶ作業を続けており、何とか会場設営が出来ました。紙風船は、飛ばした後も温かい空気を紙風船内に取り込むため火玉を付けて上げるのが古くからの習わしです。雪の上に紙風船が落ちると火玉の火が消えることで安全対策になってはいますが、今年はどこにも雪が無い状態ですので、火が点いたままだと危険なため、火玉を付けずに上げるなど、創意工夫して規模縮小等はしないで開催することとしております。雪が無くて火まつりの開催に例年以上に難儀しており、雪国の冬まつりは、やはり雪があってこそのおまつりだと改めて感じているところです。

また、平成27年から太田の火まつりの紙風船を大曲青年会議所の関係で台湾のランタンフェスティバルでも上げておりましたが、今回は台湾台北市樹林区(人口18万4千人、世帯数6万7千戸)から要請を受けて、昨年12月に紙風船3基を送っており、2月7日

から開催されるランタンフェスティバルで展示されることになっています。

それから、鈴木空如の作品が3月13日から5月10日まで東京国立博物館で開催の「法隆寺金堂壁画と百済観音」で展示されます。以前にも申し上げておりますが、空如は法隆寺金堂壁画12面を3度模写しており、そのうちの3作目が太田町の時代に生家から寄贈され、また1作目が平成30年に箱根の空如の親類から市に寄贈され、市では2組を所有しております（太田文化プラザに併設されている収蔵庫に保管）。2作目は平木浮世絵財団が所有し、東京国立博物館が寄託されていて、空如の作品が3組同時に展示されるのは73年ぶりとなるそうです。こうしたことにあわせて「鈴木空如を顕彰する会」が事業主体となり、空如作品の複製品の作成と修復する資金を調達するためクラウドファンディングを実施することで準備を進めております。ファンディング実施の情報は、魁新聞等を通して秋田県内、またふるさと会やSNS等を通して全国に発信しますが、何よりも空如の地元から大きな協力をいただかないと空如の顕彰になりません。地域協議会の皆様からのご協力いただければ幸いです。

さて、本日の地域協議会は後半、市総合政策課から大仙市のさまざまな計画について説明があります。先週、皆様に資料をお届けしておりますので、お目通しをしていただいたかと思いますが、予想以上の人口減少や社会情勢の変化に伴って計画の見直し等をはかろうとするものです。皆様からの意見等を述べていただきたくお願いいたします。

それでは、本日もよろしくご審議くださるようお願いいたします。

○会長

それでは、会議の方に入ります。次第4「会議録署名委員の指名」をいたします。会議録署名委員は、田口誠毅委員、根本昇委員をお願いいたします。

次に、次第5「報告」に入ります。（1）「地域枠予算活用事業実績報告」について、事務局から報告をお願いします。

○事務局（地域活性化推進室）

【地域枠予算活用事業実績報告について、資料に基づき説明】

○会長

ただ今、事務局から報告がありました。皆様からご質問などございましたらお願いいたします。

（質問・意見等無し）

○会長

それでは、無いようですので、ただ今の5件につきましては報告のとおりといたします。

次に、（2）「太田地域協議会委員（第5期）の選任について」、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

【太田地域協議会委員（第5期）の選任について、資料に基づき説明】

○会長

ただ今説明がありましたが、皆様からご質問などございますか。

（質問・意見等無し）

○会長

よろしいでしょうか。それでは今、事務局からお願いございましたけれども、現在1期目の委員の皆様には大変ご難儀をおかけいたしますが、引き続き4月からの再任についてご検討をお願いいたします。

次に、次第6の「その他」に入ります。委員の皆様から何か情報提供がございましたらお願いいたします。

はい、水谷委員。

○水谷仁光委員（以下、「水谷委員」と表記）

本当に情報提供というようなことですが、2つほどあります。

1つはうちの方、小神成地区の真木の入口のところに発電所があるのを皆さんご存知だと思います。多分、あの水量だとフルパワーで発電していると思います。見るとはいつてもちょっとしかありませんので、そこら辺のポンプ小屋のちょっと大きいようなものがありまして、今年は雪もありませんから、充分に見ることが出来ます。情報提供というのは、その発電のPRもそうなんですけれども、そのために今までにないくらいの水かさの水が流れて来ます。もうちょっと少なくとも良かったんですけど、その水を流したから悪いというのではなく、堰もそのくらい流して良いことになっているので何ら問題ないのですけれども、今までにない量の水が来ているために、下の方で水路の水が溢れたりすると水が上がったりするんです。皆さん戸惑っているというか、パトロールとか何か強化しなければまずいのかなということで集落の方から情報あつて動いたりしているところです。それがどうこうという話じゃなく、ただ情報として覚えていてもらえればということです。

それからもう1つは、冬まつりの話が有りまして、今年雪が無くてどうだということで、雪中田植えを私の方でお願いされてやることになりました。それもどうだという問い合わせがいろいろ、やれないんじゃないか、と来ています。ところが、うちの集落の皆さんがすべからく準備を万端に整えまして、しめ縄等も新調いたしましたし、全部新調しました。いろんな籠なんかも、いろいろクレームがつかまして、もう少し大きくしてとか深くしてとかいろいろ言われました。簡単に出来なくて、やっと5人分、それも新しく自分たちで切った竹で新調しました。

問題はその、雪中田植えそのものですが、雪を運んでくださったということでし

たのでそれを見て判断することにいたしました。想像していただければ結構ですけれども、すべてセットします。雪は無ければ無い、有れば有るようにやりたいと思います。来た皆さんにそういう風景を見ていただいて、五穀豊穰をみんなで祈願する。やれることというのはそういうことなんじゃないかなと思います。せつかく役所の皆さん、集落の皆さんが頑張ってくれていますから、来ているお客さんに雪無くてやめてしまったということをお話にならないように、きっちりやりたいと思いますので、皆さん誘い合って是非見に来てください。

それから、うちの方の集落のことを言って恐縮なんですけれども、田ノ尻集落も間違いなくやります。ただし、火を炊いたり、天筆焼きはやめます。紙風船は、火をつけないで3年くらい上げています。火を焚かない、と言っても焚きますけれども、考えまして、200リットルのドラム缶半分くらいに割ったものを危なくないように火を炊きながら幣束だとかを焼いてあげなければいけないんです。奥羽山荘に間に合わない場合は田ノ尻に来ていただければ焼きますので、是非来てください。そのような段取りで田ノ尻の方もきっちりなっています。今年から嬉しいことに女性の若い人方が、組織と言うほどじゃないんですけれども、婦人会と言われる70歳を超えた人方の組織はありますが、その下の会が無かったものですから、そういうのをきっかけとして作るために、今のこの雪中田植えのメンバーが10人エントリーになります。それを土台にして何かできないかなと、あまり無理しないで徐々に徐々にそういうふうに変ったというか、そうでないと出番が無いんです。あまり年寄り口出すなということで、若い方たちが中心となる芽が若干出て来たなど喜んでるところです。以上です。

○会長

ありがとうございます。

○水谷委員

太田支所を出しているカレンダーありますよね。あのどこかに、真木の発電所で出来ている電気は今日で何キロワットとか入れれば良いと思うんですよ。例えば、一般住宅で言えば5軒分はここで電気が起きたとか。そういうのをPRすれば面白いのかなという感じがします。

○田中農林建設課長

農林建設課長の田中です。今、水谷委員からお話ありましたように、真木の小水力発電、現在順調に発電しております。

年末に付帯工事として舗装工事、施設のフェンス工事を終了しております。施設を視察したいという問い合わせもあり、昨年も何件か視察されております。

発電量は、具体的に何キロワットなのか、家庭の電力にすればどの程度なのか、そういうような情報があればいいのかなと思いますので、家庭の消費電力に対して何軒分というような形の案内看板の設置を検討したいと思います。

○会長

是非、火まつりの方もうまくいくようによろしくをお願いします。

では次に、前回の地域協議会で学校統合が話題になりましたが、その際、子どもたちにとって学校を統合することのメリットとデメリットについて教えて欲しいということをお願いしておりました。本日資料の方配付されておりますが、これを見て説明とか質問とかございましたらお願いいたします。

○支所長

この資料は大仙市教育委員会の方からもらいました。これは中仙地域で学校統合の説明会をやった時の資料をそのままということのようでした。こういった資料を持って説明に歩いたということでした。それから前回、適正規模という話もありましたけれども、昔は45人学級で、46人になれば2クラスになるとかで、今は40人学級で、41人になれば2クラスになるということですが、今はどこの学校も40人になっていなくて、北小学校を除けば、東小学校、南小学校が多くて20数人、少ないと15人くらいの方です。簡単に言えば3小学校1つにしても2クラスになれないような人数の方ですので、一応文科省の方では適正人数の目安は有るようです。もっと詳しくとなれば、やはり教育委員会の方に来てもらってということになりますので、まずはこちらを見ていただければと思います。

あと、年に何回か地域の学校連絡協議会に出ることがありますけれども、そこで出た話では、子どもたちは学校統合に対しては結構前向きというか、友達が増えて嬉しいというような話もありました。幼保1つで、小学校で3つに分かれて、また中学校に行けば1つになるという、太田はそういう状況ですけれども、友達がいっぱいいた方が楽しいような話をされた校長先生がおりました。

○会長

メリットとデメリットを比べると、どちらも同じような内容があるなと思いました。やっぱり関係は難しいなと思いました。

部活について、勉強については分からないですけれども、やはりスポーツとかになれば、小学校の場合はスポ少なので割と一緒にしても出来ますけれど、中学校は最近見ていると合併したところはやっぱり強いなという印象はありますね。先週、横手明峰中学校に行って練習試合やったんですが、体育館とかも新しく、バレー部も男子だけで40何人いたりして、スポーツでは効果てき面のような感じがしますけれど、やはりここに書いているとおり、メリットの方で目が行き届くとか、適正な能力を把握できるというものがある一方、下の方ではそれがデメリットになっているということがありまして、非常にこれから実際に関係していく人方は大変だなと思いますけれども、太田でも近いうちにこのような話が出て来ると思いますので、関係される方々はこれを参考にして考えていただければと思います。

それでは、ここまでで一旦会議の方を終わり、休憩としたいと思います。

11時5分から再開いたしますので、よろしくお願いいたします。

(午前11時3分 休憩)

(休憩中、総合政策課職員が出席)

(午前11時6分 再開)

○会長

それでは時間になりましたので、会議を再開いたします。

次第7「協議」に入ります。「各種計画等の策定に伴う説明及び意見聴取について」、担当職員の説明をお願いいたします。

○総合政策課 新田雅昭主幹（以下、「新田主幹」と表記）

大仙市総合政策課から来ました新田と申します。本日はよろしくお願いいたします。初めに同席職員の紹介をさせていただきます。総合政策課主査の小笠原です。

本日は3つの計画についてご説明に参りました。まず1つ目に関しましては、新市建設計画について説明をさせていただきます。これについては大仙市合併前に、大曲仙北合併協議会により策定したものでございます。この計画に位置付けられた事業に関しましては、合併特例債という有利な起債があるんですけれども、それを活用できる形になっております。新市になった際の方向を記した計画ということでしたけれども、これまで改正に伴い2回程度の計画期間の延長を行って参りました。今般、さらに計画期間が5年間延長になったということから計画内容の変更を説明するところでございます。なお、この計画につきましては、旧市町村の合併の特例に関する法律の中で地域協議会のご意見をいただくこととなっておりますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

また、次に大仙市人口ビジョン及び第2期大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略という計画について説明させていただきます。これについては皆様もご存知のことと思いますけれども、国のまち・ひと・しごと創生法という中に位置づけられているものでございます。大仙市におきましても、平成28年3月に1期分として策定しておりますけれども、その終了に伴い、新たに人口ビジョンの改定と第2期の策定についてご説明させていただきます。今後、本市が向かうべき方向性として重要な計画となっておりますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

それでは、小笠原の方から説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

○総合政策課 小笠原潤主査（以下、「小笠原主査」と表記）

改めまして、お疲れ様でございます。総合政策課の小笠原でございます。

本日は、あいさつにございましたとおり3件ご説明させていただきたいと思っております。こ

れもあいさつにございましたとおり、新市建設計画というのは法令上あらかじめ地域協議会のご意見をお伺いしなければならなくなってございまして、そちらについてのご意見の方いただければと思っております。それと、説明が短時間になってしまうと思いますが、人口ビジョンと総合戦略につきましてはパブリックコメントも実施しており、ホールの方に設置しておりますので、もしよろしければそちらで改めて計画の方をご覧いただき、ご意見いただければと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

【3計画について、資料に基づき説明】

○会長

どうもありがとうございます。

会議のたびに思いますけれども、これだけの細かい資料を作れることに感心しております。ただ今の説明につきまして、皆様からご意見やご質問がございましたらお願いいたします。

はい。田口委員。

○田口誠毅委員（以下、「田口委員」と表記）

田口です。会長さんからも話有りましたが、良くこれだけの資料を作ったなと思います。ただちょっと、さっき説明したかもしれませんが、これを作るにあたって外部から助言なり提言なりもらったものでしょうか。そこを教えてください。

○小笠原主査

はい。会長さんを始め、産学官金労言士の各分野の有識者の方から意見を伺うために、大仙市総合戦略推進会議というものを設置してございます。これまで3回にわたりまして、第1期の効果検証の方にご意見をいただきながら、第2期計画の策定に向けても同じくご意見を伺ったところでございまして、その結果このようにまとめさせていただいたところです。

○田口委員

内部の人間がいろいろ協議して作った資料なのか、例えば大仙市に住所はあるけれども都会で仕事をしているような人がこっちを見て、「こういうことなら良いよな」とか「ここが足りないよな」という意見をもらって作ったものかなと思ってでした。

○新田主幹

はい。外部からの意見に関しても、当然参考にするところがいっぱいあります。私たちの方で市政評価というものがありまして、大仙市の政策に関して満足性、重要性についてご意見の方を頂戴しています。その自由意見の中でも、例えば、子育てのことにっては満足していますよという声をいただいているけれども、ただそれを皆さんが分かっているな

いという意見等もありますので、引き続き情報発信とかも必要だなというところも盛り込んでおりますし、また、内部に地域おこし協力隊の方々もいらっしゃいます。移住担当部門もいるので、その辺りの意見等も入れながら移住定住の促進に向けた取り組みなどしておりますので、できるだけ多くの意見を頂戴しながら計画の方を策定しております。よろしいでしょうか。

○会長

よろしいですか。

はい、水谷委員。

○水谷委員

水谷です。素晴らしいものができたと思います。それで、言いたいことは重点施策が6個あります。これだけでは理解できません。

1つはこの6つのうちのそれぞれのの中に丸で書かれている項目をやっていくと思うんだけど、これだけだと大まかで分からないです。この中の何かを1つ、これを進めていきたいという売りみたいなものというか、これ全部やるのは大変なことだと思うんですよ。だからその中の、6年間でPDCAを回すと言いますがけれども、いつ回すんですか、毎年ですか、2年に1回ずつですか。そういうところを書いていないんですよ。だとすれば、1の重点項目のところは、まずこれに走ってみようじゃないかという柱が無いとダメだと思うんですよ。6つみんなやっていくんだけど、一番はこれだよなというのを決めて、まずやって、各地域しゃくし定規でみんなに合わせると言っても合わなくなってくると思うので、それについて検証していくところ。

綺麗な言葉じゃなくて、具体的なものが見えて来ないとPDCAを回しようがないというか。あれもこれもだと最後不明瞭になって終わってしまう、というのが一番危惧するところ。今はいいんだけど、今後もうちょっと中身を詰めたものが出てくると思うので、そういうのを期待します。以上です。

○小笠原主査

ありがとうございます。

進捗管理につきましては、毎年度実施させていただきまして、目標の達成状況を検証して参りたいと考えているところでございます。この重点政策につきましてはご指摘の部分もございますが、施策の体系の中に具体的に取り組む事項を記載してございますので、総合戦略の方を後程ご覧いただければと思います。また、ご指摘いただいたとおり大仙市画一的に物事を進めても、なかなかうまくいくような時代ではなくなって来ているということもございまして、各地域に合わせたような特色を活かせるような事業を展開して参りたいと考えております。

5番目に関しましては、人口ビジョンのところでお話ししましたとおり、共助・支え合いの取り組みというのが非常に重要になって来るところもございまして、高齢者にも頑張

っていただくというよりは、世代のくくりなくいろんな世代、性別問わずいろんな方がそれぞれの個性・能力を活かしながら地域で活躍いただいけるような地域の理解を進めていきたいということで書かせてもらったところでございます。そのためにはセーフティネット的な地域包括ケアシステムとか、そういった部分も用意するというのは当然なんですけれども、そういった観点で地域の皆さんと一緒に取り組みを進めていきたいということで書かせてもらったところですのでご理解いただければと思います。

○水谷委員

6つ目の花火産業と言われても、良いことなんだけど太田からは良く見えない。じゃあ何が出来るかと言われてれば何も言えないんだけど。狼煙を上げて向かっていくのはいいんだけど、良くわからない、見えないというか、堅苦しいというのは非常にいいことをやっても具合が悪くなる。そのバランスというのは非常に難しいと思う。

○新田主幹

貴重なご意見ありがとうございました。

補足させていただきますと、これはあくまで概要版ですので細かい事業までは載っておりません。本編の方に具体的な事業等を載せておりますが、これがすべてではなく、これはある程度戦略の方向性ということになります。実際の事業に関しては、各担当課事業でやっていくような形になりますけれども、先ほど水谷委員がおっしゃられたとおり、花火だけという印象がどうもあるようで、実際に見てみれば花火だけではありませんので、それ以外の取り組みもしていきましょと、大仙市は花火だけではなく、自然だったり食べ物だったり良いものがありますよというところで、ここにも書かれているとおり、今年度、農業と食に関する活性化基本構想というものも策定しております。来年度4月から実施するような形になっていきますので、各地域にいろんないいところがあると思いますけれども、そういうのを盛り込みながら今策定してやっていきたいなと考えておりますし、各地域に今のようなご意見が有りましたら、私たちもこういう計画だったりとか、地域協議会の場でご提案いただければ、どんどん反映させていながら、皆様と協働でまちづくりをしていきたいと思っておりますので、その辺をこれからもご助言いただきながらご協力の程よろしくお願ひしたいと思ひます。

今回ボリュームの関係上、本編をお示しできませんでしたが、この支所のホールでパブリックコメントをやらせていただいております。そこに原案等もございませぬので、もしお時間等ございましたら見ていただひて、ご意見等いただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○会長

大仙市の総合戦略推進会議というのがありまして、その会議の中でも、今の水谷委員以上に鋭い突っ込みとか厳しい意見がありまして、ただちょっと感じたのが、今も花火ということになってはいますが、これは大曲の話で、これから重点的にという話で出され

ていると思うんですけども、多分太田であれば、太田でこういうことをやりたいという
ような、逆に出していけばこういった政策とかに載せてくれるのではないかなというのと、
あと、県とか国から助成金をいただきやすいような事業が選ばれるような感じがするなど
いう気もしますので、水谷委員もいろんなことを考えてらっしゃるので、太田に合ったこ
れから取り組んでいけるような事業を考えて提案していただければいいのかなと思います。

1つ単純な質問ですみません。人口の年齢の区分けですけど、14歳と15歳をこ
こで区切るのはどうしてですか。

○小笠原主査

詳しい理由までは分かりませんが、国の国勢調査とか人口動態調査では、定義と
して0歳から14歳が年少人口と定義されておりまして、我々がこういった推計をする際
は5歳刻みで人口を把握しています。考え方としては、やはり義務教育とそれぞれの生き
方によって変えていけるところというそういった部分だと思うんですけど、ただ最近ち
よっと話題になっているのが、65歳以上が果たして高齢者かというところがございま
して、最近では70歳とか75歳にした方がいいんじゃないかというご意見もあるよう
です。ただ、大仙市の場合は65歳以上でくくっても当然人数は多いんですけども、実
は75歳以上の人口増加率というのも非常に高くなっておりまして、ベビーブームの
年代とか団塊の世代の人数が多いので当然そうなるということもあるんですが、そ
ういった定義の中でやらせていただいているというか、こういった資料化する際
には5歳刻みだと広すぎて的を絞れないということもありまして、国の方に合
わせて行っていますので、ご理解の程よろしくお願いたします。

○会長

例えば、働く年代に合わせたような統計もあるんですかね。高校を卒業して
からというか大学を卒業してからの生産年齢層というか。

○支所長

すみません、私の方から補足ですけども、国勢調査というのが5年に1回行
われます。今年の10月に行われます。私も統計担当をやっていた時に、水谷
会長と同じような疑問を感じました。良く調べたわけではないですが、多分
国勢調査が始まった頃というのは進学率なんかも低くて、中学校終わって
すぐ働く人たちがもしかすれば7割8割だったのかなということで、年少
人口と生産年齢人口という風になっていて、ずっとそれに由来している
のかなと思います。今は高校進学率もほぼ100パーセントになって、時代
には合わなくなって来ているんですけども、前回調査との比較となればな
かなか無理な部分があるのかなということで、私が個人的に思ったこと
ですけども、昔の名残がずっと引き継がれて来ているように思います。
実際のところ生産年齢人口となれば、今やはり高校終わってからすぐ
職に就く人も減って来ているので、21歳22歳から、さっきあったと
おり75歳くらいまでになったのかなというような気もしますが、統計上
そういう風

になっているようです。

○田口委員

すみません、もう2つほど。この資料にあります、駅舎の改装とあるんですけども、大曲駅でよろしいですか。では、他の駅はどうなるんでしょうか。

○小笠原主査

今計画されているのは大曲駅ということであって、乗降人数とか新幹線の発着所でもありますので観光客も多く、下りのエスカレーターが無いということで、利用者の方から色々声が上がっていたようでございまして、その整備をするものでございます。

他の駅舎についても同じような要望があれば当然検討のテーブルには乗ると思いますけれども、あとは利用状況とかも当然考慮しながらという形になっていこうかと思っております。

○田口委員

はい。今の話だと観光客という話でしたけれども、ちょっと大きいといえば、羽後長野駅、神宮寺駅、刈田野駅、トイレに入った時なんかも綺麗だとは言えないという状況、そして不便だということで、一般の個々の住民が利用する時にどうだろうかと疑問を感じることもあったものでしたので、もしできれば個々の住民が公共交通機関を利用するという立場から考えた時にどうなのかなということも考えてもらいたいというのが1つです。

もう1つが、企業団地整備事業というのがあります。私が思うに太田だけでないと思ったけれども、誘致企業を誘致すると言って合併前はかなりその工業団地というのを作ったと思うんだけど、その利用状況と、それ関係なく新しく創設して作るのかということ、もし分かったら教えていただきたいと思えます。

○小笠原主査

はい。トイレの件に関しましては、担当する課が観光課、まちづくり課というところになりますので、そちらの方に申し伝えておきます。あとは企業誘致につきましては、現在整備済みの企業団地はほぼ埋まっている状況にございます。雇用の状況を見ますと、いろいろテレビや新聞にも載っているんですけども、有効求人倍率が1.5倍前後で推移している状態の中、なかなか就職のマッチングが進まないという状況もございます。

何が問題かということ、希望する職種が無いとか業種が無いとかというような理由もございまして、そういった観点から新たに企業団地の整備の必要性があったということと、逆に大仙市に進出したいという企業さんの申し出もあったということで、場所が無かったようでしたので新たに整備の方を計画したようでございます。我々も担当ではないので聞いたレベルで大変恐縮なんですけども、人手不足というのも既存の企業さんの中では有りまして、そういったところとの兼ね合いというか調整というのが重要になってくるのではないかという風には思っております。

○会長

ありがとうございます。他によろしいでしょうか

(質問・意見等無し)

○会長

それでは無いようですので、ただ今の協議につきましてはこちらで終わらせていただきます。これからどんどん完成させていくことと思いますので、皆さんご意見等ありましたら、その都度ご意見を言っていただければと思います。

それでは、最後に事務局から連絡事項はございますでしょうか。

○事務局

はい、事務局からの連絡ということで次回の地域協議会、第6回を3月の下旬に開催したいと考えております。それが今年度最後の地域協議会になる予定でございます。以上でございます。

○会長

最後にちょっと皆さんに情報提供というか、資料の方1枚ですけれども、平成30年12月23日に、大仙市地域協議会と大仙市自治組織連絡協議会との合同研修会が「はなび・アム」でありました。その時の講師が、大曲商工会議所の相談役の森田先生という方で、これからの時代に地域はどうあるべきかというテーマで講演をさせていただいて、秋田県のいろんな分析をさせていただいて、その資料の一番最後に結果分析というのがありまして、今日はこれからの大仙市をどうするかという戦略でありましたけれど、それこそ田口委員がおっしゃられていた、外からどう見るかというそういう視点で書かれていたのも結構ありましたので、ちょっと参考にさせていただければと思ひまして、皆さんに配布させていただきました。

それでは、3月下旬にもう1回会議ということでしたので、その時まで頑張って、その時までインフルエンザなどにならないように健康に気をつけてまた出席していただければと思います。

それでは長時間になりましたけれども、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。どうもありがとうございました。

(午後0時3分 閉会)

太田地域協議会運営規程第7条第2項の規定により、ここに署名する。

会議録署名委員

田口 誠毅

根本 昇
